



- 甲府やまなみクラブ会長主題：千里の道も一歩から
～ 一歩ずつ着実な歩みを進めましょう ～ 米山 俊彦
- あずさ部長主題：めあて望み ピーター・マウントフォード (甲府)
- 東日本区理事主題：ワイズの方向を見極める 山田 公平 (宇都宮)
- アジア太平洋地域会長主題：大きなインパクトを起こそう ジョウン・ウオング (香港)
- 国際会長主題：より良い世界のために、共に A・シャナヴァスカーン (インド)

甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2025年 1月
No.28

●今月の強調目標
EF
JEF

●今月のことば
「青年よ 大志を抱け」 ウィリアム・スミス・クラーク
松本 公夫 君 選

今月の例会案内 (第28回)

- 甲府・甲府21・富士五湖・甲府やまなみ合同例会
- 日時：2025年1月11日(土) 11:00～13:30
 - 会場：山梨YMCA 大澤英二記念ホールベテル
 - 会費：4,000円
- ▼第1部 例会 司会:甲府やまなみ 仙洞田安宏
- ・開会点鐘 甲府やまなみクラブ 米山 俊彦 会長
 - ・ワイズソング 一同
 - ・会長挨拶・ゲスト紹介 甲府やまなみ 米山俊彦 会長
 - ・挨拶 あずさ部部长 ピーター・マウントフォード
 - ・新春講演「世界に繋がるワイズメンズクラブ」
 - 直前アジア太平洋地域会長(川越クラブ) 利根川恵子様
 - ・ハッピーバースデー/諸報告 各クラブ
 - 写真撮影----
- ▼第2部 懇親祝会 司会:甲府やまなみ 藤原 一正
- ・開会の辞 甲府21クラブ 輿水 順雄 会長
 - ・食前感謝 甲府やまなみクラブ 福田奈里子
 - ・乾杯 富士五湖クラブ 原 淑子 会長
 - ・新入会員紹介/アピール等
 - ・YMCAプレゼンツ
 - ・YMCAの歌 一同
 - ・閉会点鐘 甲府クラブ 小倉 恵一 会長

12月のデータ

会員数:11名 例会出席:7名
例会出席率:64% ゲスト:中澤幸子様
メーキャップ:2名(遠藤成人・渡邊隆)
修正出席率:82% ニコニコ:2,600円

ハッピーバースデー

メネット 土橋 真美 (1/18)

●●●● 会長メッセージ ●●●●

新年のご挨拶
会長 米山 俊彦



2025年の新しい年が明けました。皆さんは、特に今年は様々な思いで、新年を迎えられたことでしょうか。昨年は、元旦に発生した能登半島地震によって石川県能登地域に甚大な被害が発生するという大変な新年の幕開けとなりました。1年が経った今、改めて

被災された方々の悲しみやご苦労に思いをいたし、甲府やまなみワイズメンズクラブとしても能登地域の日も早い復興を願い、これからも支援活動に協力をしていきたいと思ひます。また、昨年は、やまなみクラブが3年目を迎え、活動も軌道に乗ってきました。会員の皆さんのこれまでのご尽力に心から感謝を申し上げます。

さて、話は変わりますが、今年の干支は、“蛇”です。蛇は、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿が、昔から再生や永遠の象徴となっています。こうした意味から巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。さらに、蛇は金運の象徴としても知られていて、「豊かさ」や「繁栄」を願うメッセージにもなっています。その巳年に因み今年、これからの社会を担う若い人達が能力を発揮できるユースエンパワーメントを念頭に置いて、やまなみクラブとして新しい事にチャレンジする年にしていきたいと思ひます。

今年1年、ワイズメンズクラブの諸先輩方や山梨YMCAの皆さんのご支援、ご協力をいただきながら、やまなみクラブの活動を前に進めていきたいと思ひますので、どうぞ、よろしくお願ひします。

● 教会建築の魅力に触れた 12月例会 ●

米山 俊彦

12月とはいえ、それほど寒さが感じられない12月4日(水)、今年最後の例会となる12月クリスマス例会を山梨YMCAで開催しました。少し早いクリスマスを感じることができた例会でした。

今月のことばは、今月の強調目標である「キリスト教理解」に因んだ言葉としてアメリカ人の建築家であり、実業家でもあったヴォーリズが新年の書初めに書いた「祈りつつ、前進」という言葉を仙洞田さんが紹介し、卓話も建築設計士であり、近代建築に造詣の深い仙洞田さんから「日本の教会建築の魅力」というキリスト教に関係するテーマで話していただきました。

ワイズディナーは、幕の内弁当とお茶の食事の後、ショートケーキにゲストの中澤さんからいただいたドーナツのデザートと、そしてやまなみクラブでは、お馴染みになりましたタイ原産のコーヒーを味わいながら、和やかな雰囲気の中で卓話に移り、教会建築の魅力について聴きました。



【卓話で紹介された甲府カトリック教会】

卓話では、江戸時代の末期から昭和時代までの間に建てられた全国の30の教会が映像とともに紹介されました。その中には、日本の教会建築で唯一国宝に指定されている長崎の



大浦天主堂をはじめ、重要文化財や世界文化遺産に指定された地域の教会も多くあり、キリスト教の礼拝の場として信者の心の拠り所になっているとともに、建造物として文化的に高い評価を得て、人々に広く親しまれていることがわかりました。

また、江戸時代の隠れ切支丹の殉教者を慰霊するために建てられた教会の経緯やいくつかの教会にまつわる逸話も紹介され、日本におけるキリスト教徒の苦難の歴史や教会建造に至る当時の人達の苦勞などに思いを馳せながら、説明に耳を傾けました。かつては、迫害された時代にあってキリスト教のシンボルであり、その中には和洋折衷の建築様式が用いられた教会もあるということは、日本の教会建築の特徴であり、魅力でもあると思いました。

私が、実際に訪れたことのある教会は僅かでしたので、いずれ時間を作って訪れてみたい教会が沢山ありました。

卓話の後には、前回の卓話の「アマチュア天文家の天文ライフ」の話題から宇宙やUFOにまつわる話で盛り上がり、最後にこれからの活動日程を確認して閉会となりました。

出席者：米山・松本・仙洞田・大澤・藤原・遠藤(恭)・福田、ゲスト：中澤幸子様

12月例会ニコニコメッセージより

▼多種多様な教会建築に興味深く伺いました。鉄川与助さんのこと、初めて知りましたが、デザイン、技術力に驚きました。五島列島に行き、建築体感をしたくなりました。(ゲスト：中澤幸子様)

▼今年最後の例会をケーキとコーヒーのクリスマス例会として楽しみました。中澤さん、ドーナツご馳走様でした。また、日本の教会の魅力の一端に触れることができました。メリークリスマス!! (米山俊彦)

▼日本の重要文化財の教会建築について、今回は各地の教会を紹介され、改めて国内にはたくさん美

しい教会があることを知りました。(松本公夫)

▼卓話を聞いて長崎の旅に行きたくなりました。

(遠藤恭範)

▼山梨にも素晴らしい教会建築が沢山あることを知り、とても興味深かったです。(福田奈里子)

▼「キリスト教理解」という今月の協調目標に合わせて、僭越ながら近代の教会建築の紹介をさせていただきました。後輩の中澤さんも出席してくれて大変うれしかったです。(仙洞田安宏)

第3回みずがきの家学習会報告

担当主事 福田奈里子

クリスマスを間近に控えた12月23日(月)、午後6時半から山梨YMCAにおいて、第3回目のみずがきの家学習会が開催されました。参加者15名、うちユース6名でした。今回は「ワイズメンズクラブとYMCA」について、甲府やまなみクラブの仙洞田安宏さんに発題いただきました。YMCAのユースやスタッフにとっては普段からよく見聞きするもののその内実はあまりよく知らない、そんな存在の『ワイズメンズクラブ』について、その歴史や成り立ち、目的をわかりやすく説明していただきました。

その後のフリートークで語られたことに今回の学習会の真髓があったように思います。YMCAを支える団体としてワイズがあることはもちろん、ワイズとYMCAが両輪となってYMCA運動を進めていること、ワイズ独自の社会運動としてのミッションをもっていること、それらの運動の中心にはいつもユースがいること…を、改めて確認しました。長い間YMCAと歩みを共にしてこられた方々の想いに触れながら、ユースたちは今の自分にとってのYMCAがどのような場



であるかを振り返り、ワイズのサポートで実現できたユースアクションでの様々な活動に対する意気込みを語ってくれました。目には見えないけれど「確かなもの」が引き継がれているな、という感じのする、とても豊かな時間になりました。

会の後、桑島一郎初代山梨YMCA総主事のご遺族から、賀川豊彦が記した掛け軸が山梨YMCAに寄贈された報告があり、披露されました。(下記記事)

参加者:岩間孝吉(常議員)、小澤公紀・後藤哲夫・寺田喜長・松村禎夫(甲府21)、仙洞田安宏・松本公夫(甲府やまなみ)、天野亜衣子・石井里歩・高松陽子・立岡ひなた・渡邊結菜(ユース)、菊池央人・平賀佳雅・福田奈里子(Yスタッフ)

凡そ 愛ある者は 神より生れ 神を知る
愛なき者は 神を知らず
桑島敏統兄翁 一九四八、六、二二 賀川豊彦

掛け軸の言葉は、新約聖書(1953年・文語訳)、ヨハネの第一の書・第4章7-8節の言葉とされます。現代語(1988年、新共同訳)では「愛は神から出るので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」

第2次世界大戦後の混乱した日本社会の中で、賀川らは新日本建設・キリスト教運動の一翼を担い、1948年(昭和23年)6月、東京から山梨県に向かい、20日は甲府の県議会議事堂で、21日は市川大門で、22日は甲府一高で講演した後、葦崎教会で講演している。その夜の宿を提供した桑島敏統さん(桑島一郎=初代YMCA総主事の父親)宛に(為書き)、感謝を込めて、この書を書き記し、贈られたという。この度、ご遺族から、新しい表装を施した上で、山梨YMCA宛に寄贈されたものである。

(文責:岩間孝吉)

今月のことば

「青年よ大志を抱け」

松本 公夫

若き頃誰でも聞いた名言ですね。幼き頃からその言葉が外国へと私は導かれた気がします。1961年(ジョン・F・ケネディ元アメリカ大統領)がアメリカピースコー(平和部隊)を途上国へボランティア派遣令実施に踏み切りました。日本政府も1965年途上国へ技術指導ボランティアを派遣されていました。18歳頃そのドキュメンタリー映画を見て、外務省等を検索して青年海外協力隊(現JICA海外協力隊)制度を見つけ応募、運よく合格して未知の国ケニアを想像しながら3カ月言語等を学び研修も終わり現地へ派遣されました。

実際ケニアは私の想像とは裏腹に、首都は近代化されておりましたが、一步郊外へ出るとスラム街や貧しい生活者、失業者等が多かったです。彼らは素朴で貧しくても明るく素直で努力家の人達でした。私の本職は自動車整備指導でしたが、趣味のバレーボールで訓練学校を有名にした為、契約は2年でしたが、学校からの強い要請で6年間活動できました。各自色々な大志はあるが、それを実践でき現在に生かされていると自負しております。

温故知新～史料室の書棚から

仙洞田安宏

史料室には、山梨YMCAは勿論、全国のYMCAの周年記念誌が保存されています。山梨YMCAは1946年5月に国内13番目の都市YMCAとして設立されました。来年(2026年)には80年を迎えますが、これまで、

「山梨YMCA十年史」

「荒野に水わきいで」(40年)

「これ皆一つとならんためなり」(50年)

「共に生きてゆきたい」(60年)

「すべてのものを一つに」(75年)

が発行されてきました。



【山梨YMCAの周年記念誌】



山梨YMCA 総主事

中田 純子

「祝福・平和・希望に満ちた新年へ」

新年おめでとうございます。2025年を迎えるにあたり、まず私たちは日本と世界の平和を祈り、喜びを分かち合うために心を静めたいと思います。

昨年12月は、イエス・キリストの誕生を祝う喜びの時でしたが、同時に私たちにとって大変大きな出来事もありました。昨年10月、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞しました。このニュースは私たちに驚きと喜び、そして大きな希望をもたらしました。

日本被団協は広島YMCAから始まり、共に同じ思いで運動し、平和を訴えてきた団体です。長年の努力が世界に認められたことは、平和を求める私たちに力強いメッセージを送っています。12月10日の授賞式では、田中熙巳代表委員が「核兵器は一発たりとも持っていない」という被爆者の強い願いを世界に向けて訴えました。また、「核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張ろう」と呼びかけ、未来への希望を示しました。

★ 役員会&忘年会 ★

▼日時:12月18日(水) 18:00～20:30

▼場所:魚そう北口分店

▼出席者:米山・藤原・松本・渡邊・遠藤(恭)・遠藤(成)・仙洞田

▼協議・確認事項

✓新年4クラブ合同例会について:準備事項の詳細を確認した。前日18:00から、会場設営と最終確認をする。

✓次年度役員体制について:今年度と同体制とする。

▼役員会後、忘年会としてこの1年を振り返り、懇親を深めた。



【全国のYMCAの周年記念誌】

しかし、地続きにある円い地球を見ると、人々の争いは絶え間なく続いています。自ら兵器を持ち戦いに向かう姿は、ただ悲しいというよりも心が引き裂かれる思いです。

山梨YMCAは1946年、戦後間もない時期に設立されました。戦争を体験した青少年たちがこの地の平和を祈りこのYMCAを築き上げてきたのだと想像されます。このYMCAに寄り添うワイズメンズクラブも同じ方向を向いて歩む団体として、これからもすべての人々にとって平和な社会の実現に向けて努力を続けていきましょう。2025年の祝福と世界の人々の平和とより良い未来への希望が生まれますように祈りを重ねます。この時、皆様と共に小さな一歩を踏み出すことができることに感謝いたします。

これからの予定

- ✓ 1月13日(月・祝) お正月を遊ぼう
- ✓ 2月 5日(水) 2月例会(山梨YMCA)
- ✓ 2月 8日(土) あずさ部評議会(ホスト:甲府21)
- ✓ 3月 5日(水) 3月例会(山梨YMCA)